

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-023	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol Consumption in Relation to Plasma Sex Hormones, Prolactin, and Sex Hormone-Binding Globulin in Premenopausal Women. 閉経前女性における血漿性ホルモン、プロラクチンおよび性ホルモン結合グロブリンと関連するアルコール消費量		
<b>執筆者</b>		
Hirko KA, Spiegelman D, Willett WC, Hankinson SE, Eliassen AH.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2014 Dec;23(12):2943-53. doi:10.1158/1055-9965.EPI-14-0982.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、乳がん、性ホルモン、閉経前女性		25281368
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>                      アルコール摂取は乳がんの危険因子であり、閉経前の血漿ホルモン値は乳がんに関連することが示唆されている。本研究では、閉経前女性を対象とし、アルコール摂取量および種類と血漿性ホルモン濃度の関連を横断的に解析した。</p> <p><b>方法：</b>                      閉経前女性 2,000 名の血漿中性ホルモン（エストラジオール、硫酸エストロン、テストステロン、アンドロステンジオン、デヒドロエピアンドロステロン[DHEA]、性ホルモン結合グロブリン[SHBG]など）を測定した。また、半定量食物摂取頻度調査により平均アルコール摂取量を調査した。一般化線形モデルを用い、アルコール摂取カテゴリにおける幾何平均ホルモン濃度およびカテゴリ最上位と最下位の差を解析した。</p> <p><b>結果：</b>                      20g/日以上のアルコール摂取女性は非摂取女性に比べ、黄体エストロゲンは 25.7% (幾何平均 106 vs. 84.5 pg/mL, P trend=0.001)、黄体エストラジオールは 27.2% (幾何平均 182 vs. 143 pg/mL, P trend=0.006)、SHBG は 16.8% (幾何平均 85.6 vs. 73.3 nmol/L, P trend=0.03) 高く、遊離テストステロンは 17.9% (0.16 vs. 0.20 ng/dL, P trend=0.002) 低かった。10g/日以上のアルコール摂取女性は非摂取女性に比べ、卵胞硫酸エストロンは 26.5% (950 vs. 751 pg/mL, P trend=0.04) 高値であった。その他の性ホルモンとアルコールの間に有意な関連は認めなかった。ビール摂取と DHEA およびアンドロステンジオンの間に有意な正の相関関係を認めた。</p> <p><b>結論：</b>                      アルコール摂取は血漿黄体エストロゲンと有意に正相関するが、卵胞期におけるアンドロゲン、エストロンおよびエストラジオールとは関連しない。</p>		